

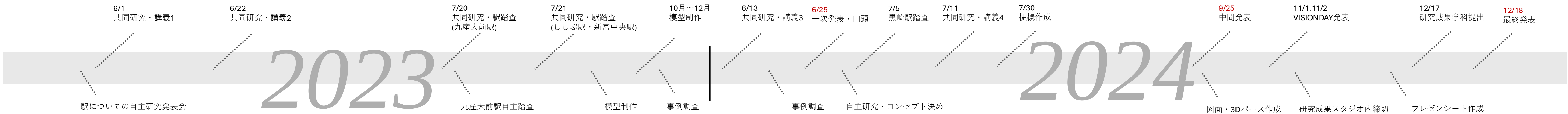
九産大内駅

～新しい駅の在り方～



九州産業大学 建築都市工学部
住居・インテリア学科 松堀有希





九産大前駅



今回の設計対象である九産大前駅は、福岡県福岡市東区唐原 1 丁目に位置する。平成元年 3 月に開業し、建設費の約半分を 九州産業大学が負担した。鹿児島本線の相対式ホーム 2 面 2 線の設備を有する地上駅で、駅舎は橋上駅。中でも、中規模駅に分類される。

2022 年時点の 1 日の平均乗車人数は 6,965 人、JR 九州駅別乗車人数上位 300 位中 21 位に値し、快速が止まらない駅としては 1 位に該当する。途中でバリアフリー工事を挟みながら今年で 35 年目を迎える駅舎である。天窓から光が差し込むような改札や、自由通路のえきなかギャラリーが特徴的であり、えきなかギャラリーには芸術学部作品や、美術館の案内ポスター、九州産業大学イベントのポスターが展示されている。

駅西側は国道 495 号線が通っており、国道に沿って一部飲食店が連なっているが、駅周辺は基本アパートやマンションなどの住宅街となっている。徒歩圏内にスーパーマーケットやコンビニエンスストア、ドラッグストア、郵便局が充実しているため、住みやすい環境が整っている。

JR九州との共同研究

本研究は JR 九州(九州旅客鉄道株式会社)との共同研究でもあり、2023 年から始動しているプロジェクトである。JR 九州は「安全とサービスを基盤として九州、日本、そしてアジアの元気を創る」企業グループで、九州全域をカバーするネットワークを運営し、新幹線や特急列車なども提供している。この鉄道事業以外にも、不動産開発、ホテル運営、飲食業などの多角的な事業を展開していることから、地域社会との連携を重視し、地域活性化や観光振興に積極的に取り組むことで九州の発展に寄与している企業である。

JR 九州とは今まで駅舎設計のルールや手法についてなどの講義や、事例調査、駅の現地踏査(九産大前駅、ししぶ駅、新宮中央駅、黒崎駅)を行ってきた。この講義の中で、駅リニューアルの目的・目指す場所について語っていた。

■時代のニーズにあわせた駅づくり

- ・既存の駅に必要な情報を整理し、建築社員自ら知恵を出し合う
- ・内装や外装を変えるなど

■地域と一体となった駅づくり

- ・既存の駅舎に併設される自治体施設との融合
- ・地域の特色をテーマにするなど

駅ができること、リニューアルされることで更なるにぎわいを目指している

コンセプト

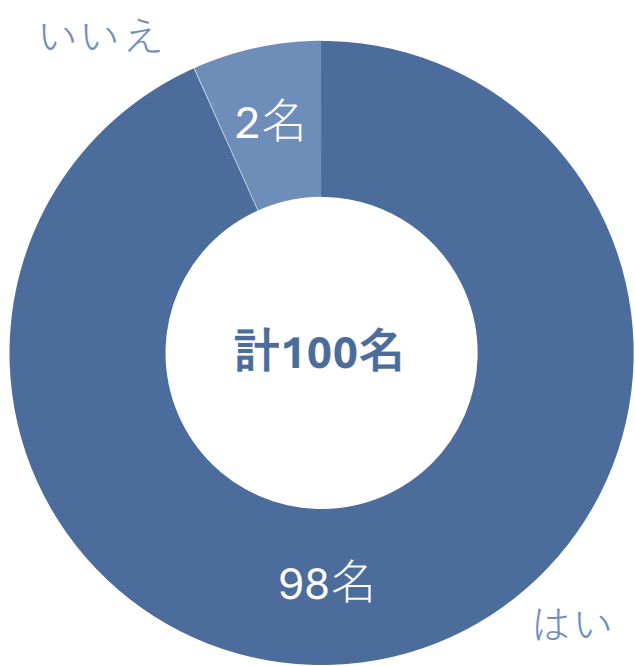


01 New area

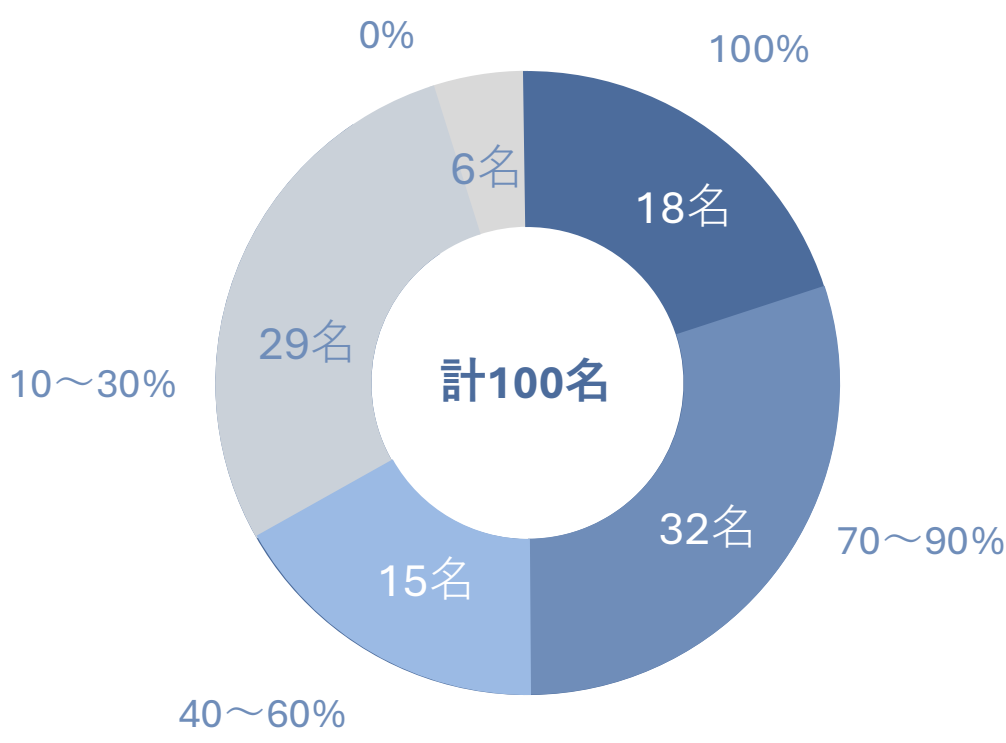
アンケート結果

駅の設計を進めていくにあたって、利用者の視点も必要になってくる。そこで、先行研究についての発表が終了した6月25日に、九州産業大学に通っている学生を対象にアンケートを実施した。当アンケートを参考にこれからプランを提案していく。

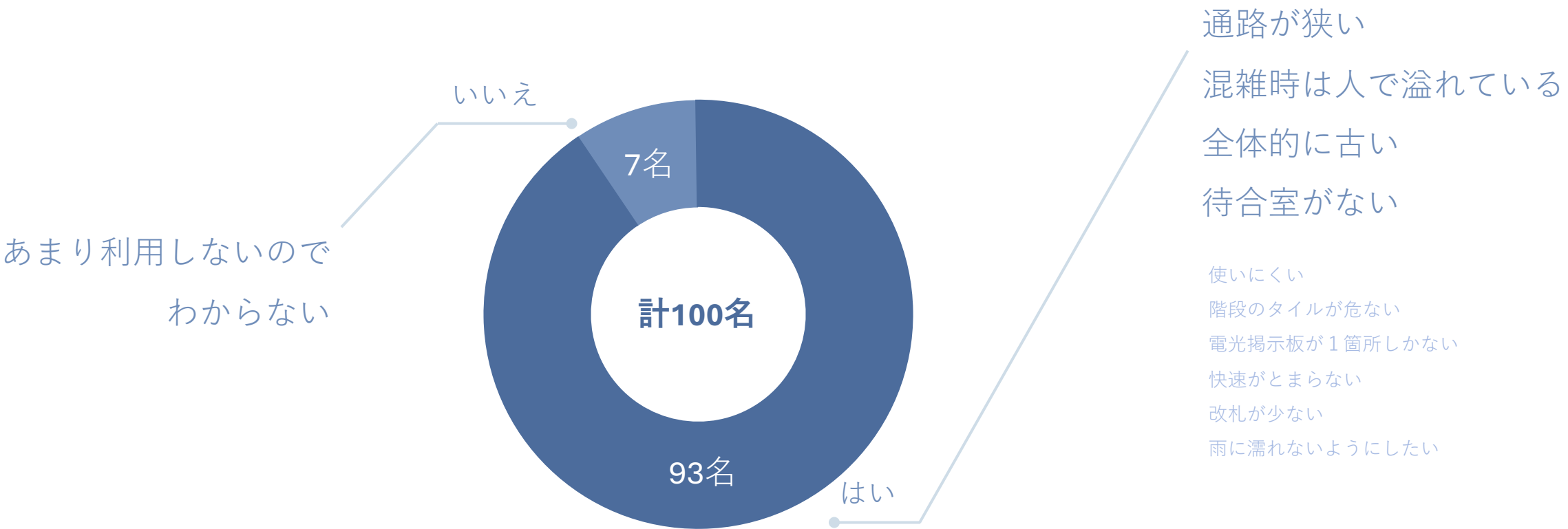
Q1.九産大前駅を利用したことはありますか。



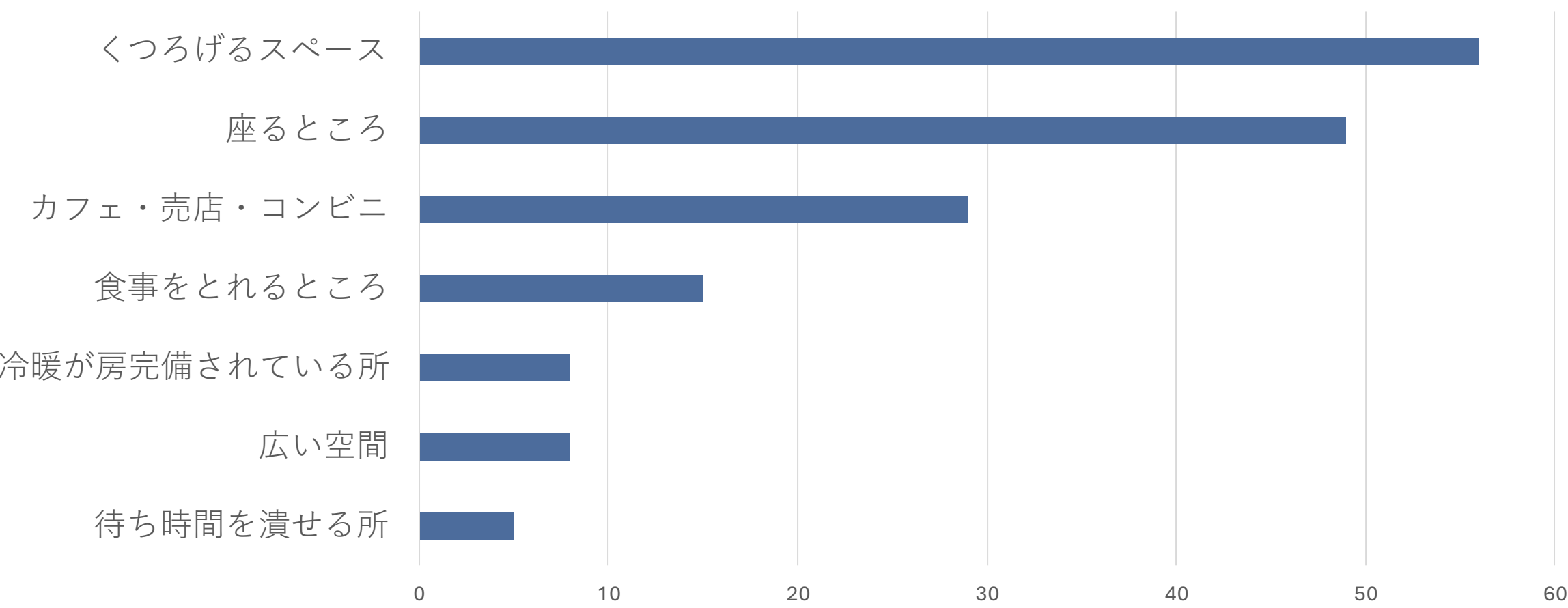
Q2.九産大前駅を月にどのくらい利用しますか。
(5月の利用状況を目安に)



Q3.今の駅舎の改善してほしい点はありませんか。



Q4.駅舎の新築にあたってどのようなスペースがあれば良いと思いますか。



計画地



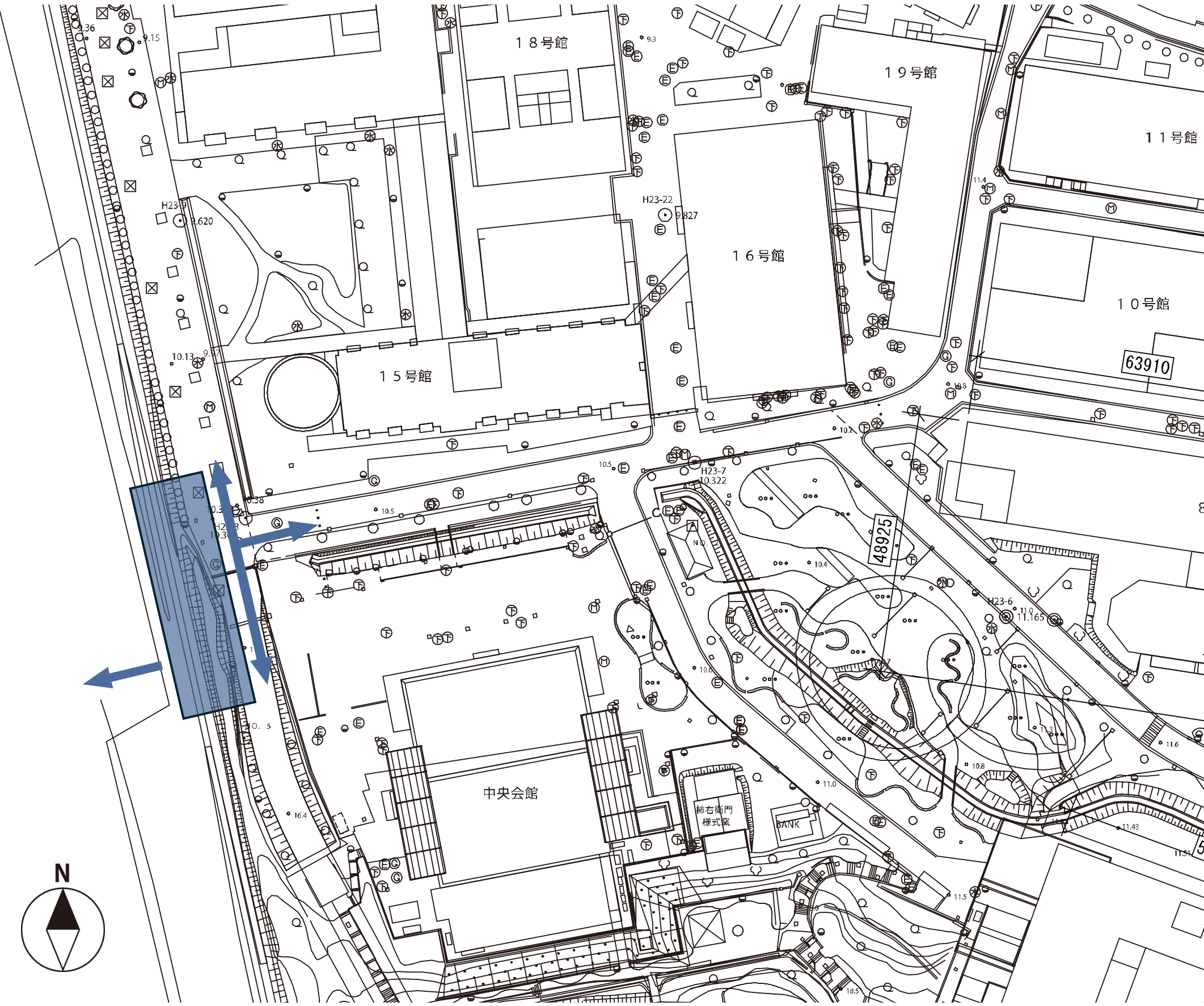
踏切周辺は歩行者と車が混雑しあって危ない



車と歩行者の混雑解消

— 鹿児島本線
— 香椎線

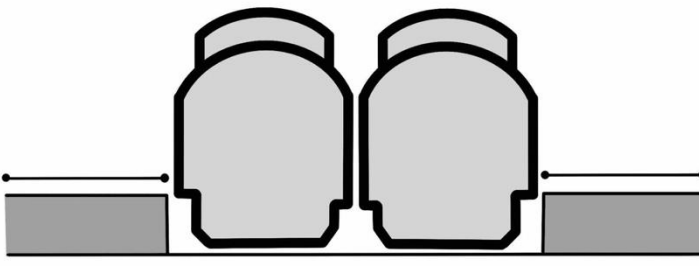
鹿児島本線と香椎線が収まるので香椎線も止まる駅になるよう検討する。現在、西戸崎方面から九州産業大学に通学している学生は九産大前駅を一度通り過ぎ、香椎駅で乗り換えを行い九産大前駅へと到着する。香椎線も止まるようにするとこのようなことは起こらなくなる。さらに、香椎線が止まれば快速が止まる条件を満たし、快速が止まる可能性が生み出される。



計画地は、現在学内の主要な通りが交わっており、一番人通りが多くなる、駅前の人の分散が期待できる。また、現オープンスペースとしても広く確保されている中央会館前が駅前広場になるので、地域住民と交流を生み出すことも可能になる。JR九州の敷地内ではつくることのできなかった駅前広場を大学の敷地を利用する事で可能にし、JR九州にとっての利点になる。同時に、駅前広場は地域住民との交流の場として最適であり、地域住民との交流を図ろうとしている大学にとっても利点になるのではないかと考える。

ホーム形式

現在の九産大前駅は相対式ホームになっている。アンケートにおいて「通路が狭い」、「混雑時人で溢れている」という意見がみられた。ホームが人で溢れていると線路上に墜落する危険がある。そこで、今回改善のため、島式ホームに変更することにした。



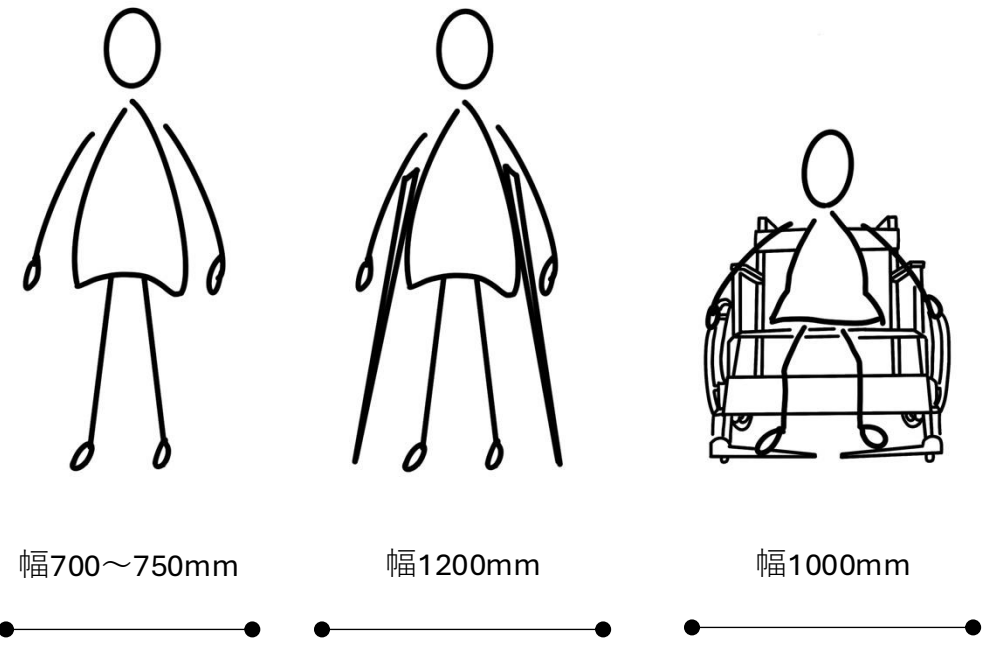
相対式ホーム



島式ホーム

■ 人体寸法

交通機関としてさまざまな人が利用する駅の設計において、バリアフリー対策を行うことは必須である。本研究では、JR九州筑肥線にある糸島高校前駅で用いられた以下の人体寸法を考慮し、設計を進める。



多様な利用影響	占有幅
ベビーカーを押して歩く	0.75m
両手に荷物を持って歩く	1.0m
車椅子を押して歩く	1.0m
2人で話しながら歩く	1.5~2.5m
家族4人で歩く	3.0m

02 Plan

西側外観パース

下の写真のように各駅には地域の特徴を表したシンボルマークがある。九産大前駅は「大学」の文字はないが「椎木と楠木の葉を組み合わせたものに大学の文字を配したデザイン」である九州産業大学の校章がシンボルマークになっている。

明確ではないが、香椎の地名の由来となった「神功皇后が仲哀天皇の亡骸を椎の木に立て掛けたところ、あたり一面に香りが漂ったこと」の椎木。楠木群生地地の北限とも言われる立花山の楠木。この両者が合わさって校章ができたのだと考えられる。そこで、地域に開いている西側は椎木と楠木を取り入れた外観に仕上げた。



シイ（スダジイ）



クスノキ

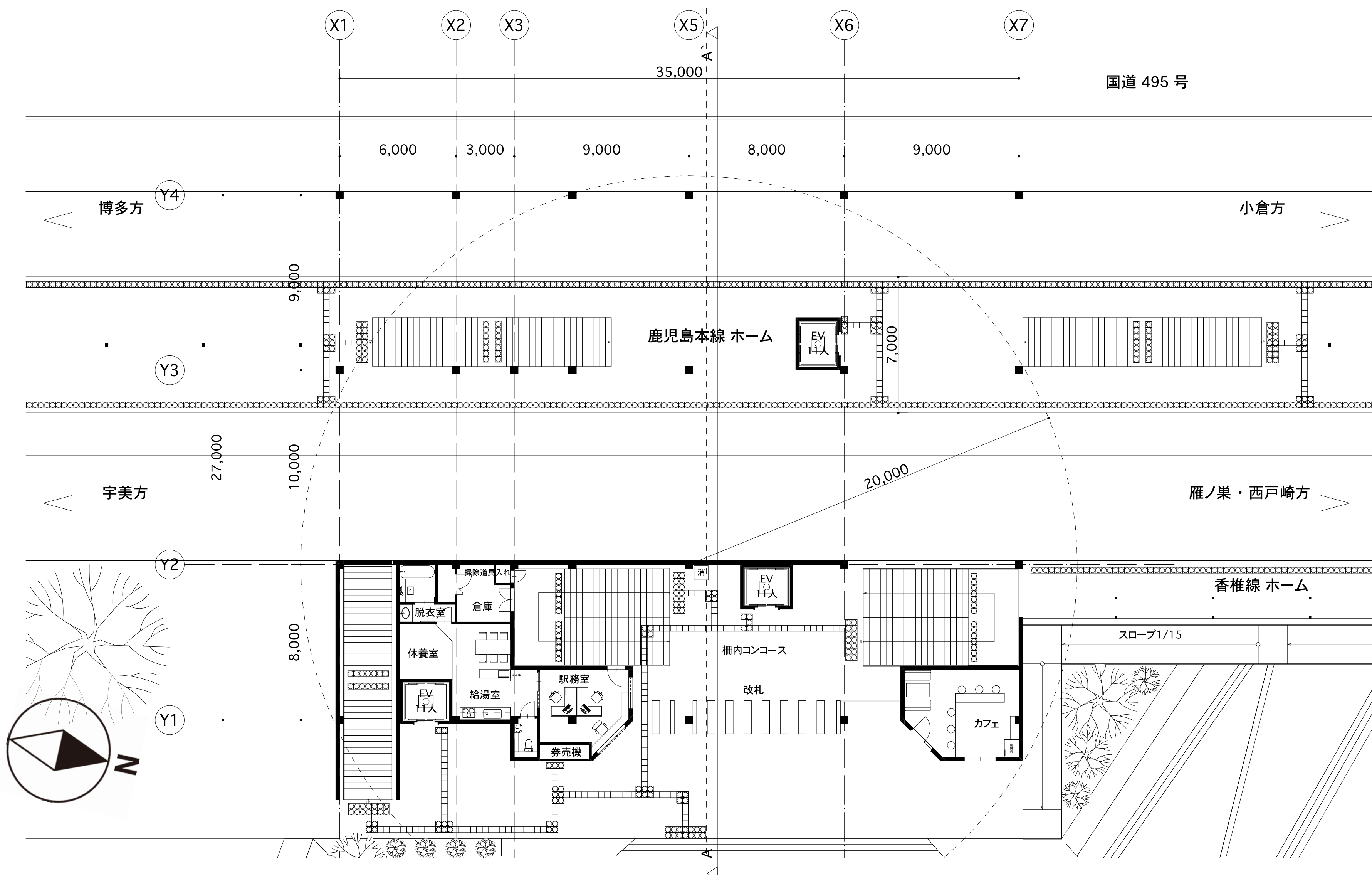


東側外観パース

九州産業大学美術館と大構アリーナと似るようにし、大学と馴染むように外観を施した。九州産業大学はランドスケープデザインに力を入れおり、学内は緑あふれる居心地の良い空間が広がっている。駅前広場にも植栽を施し、駅と大学が分離しないよう意識した。また、その景観を駅プラットフォームから見えるようガラス張りのデザインになっている。

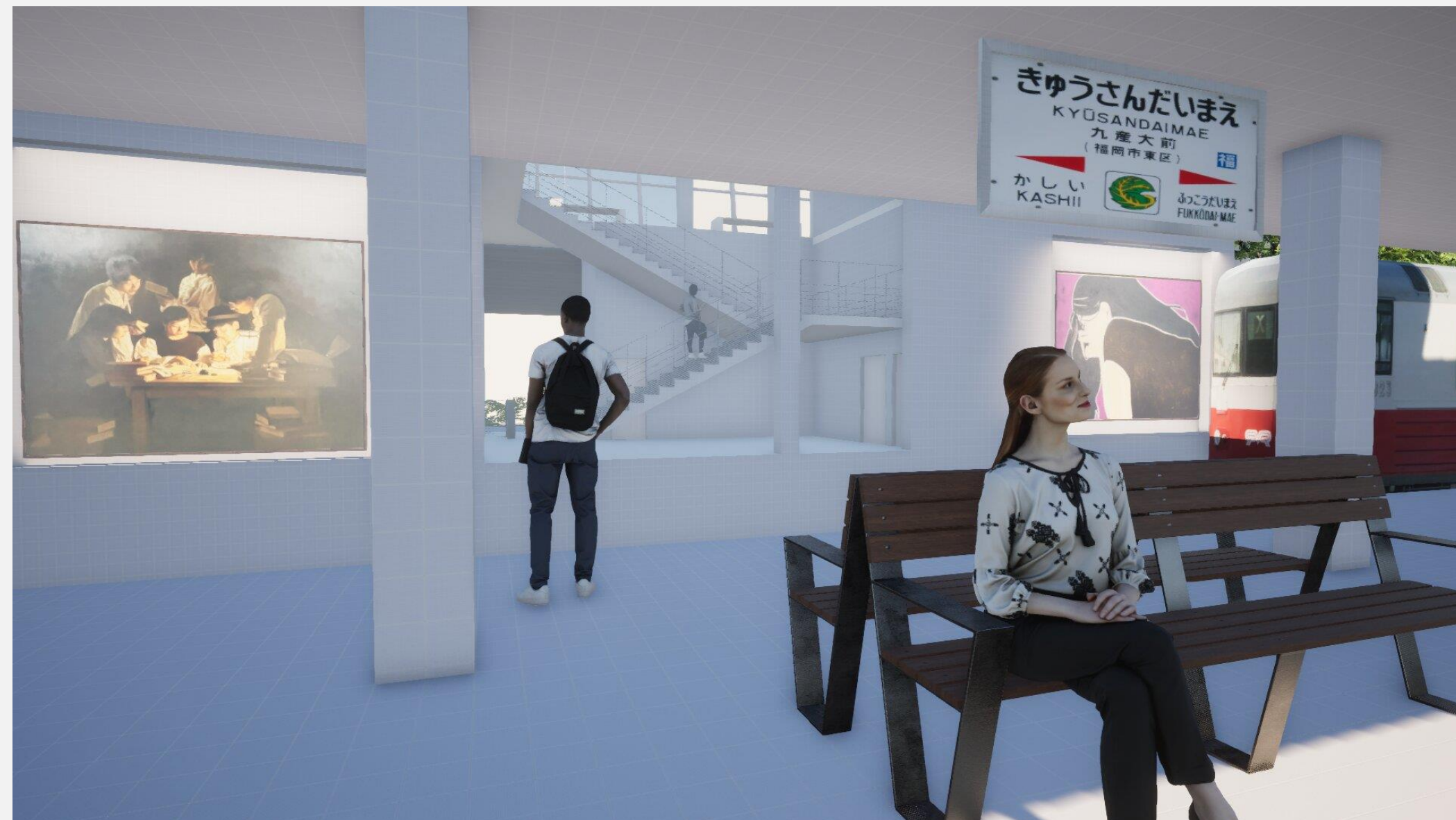
ここ数年、ガラス張りのデザインの駅舎は増加傾向にある。今回リニューアルにあたって駅舎のトレンドも取り入れた外観にこだわった。





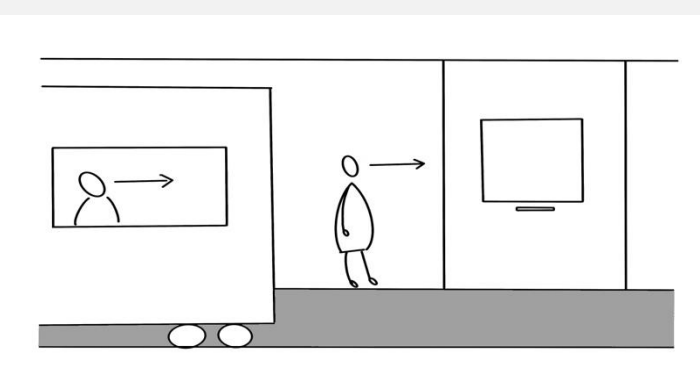
1階平面図（1:150）

ホーム



九州産業大学には文理工芸10学部22学科、部活動がある。下の写真のような作品やトロフィーをホームに展示し、車窓からひと目で九産大内駅だとわかるようになっている。

普段目にしない他学部の取り組みを知ることができたり、快速が止まらない駅として、次の電車が来るまでの時間潰しにもなると考える。また、ホームに作品やトロフィーなどを展示することは、駅利用者に対して大学の広告としての役割も果たすのではないだろうか。

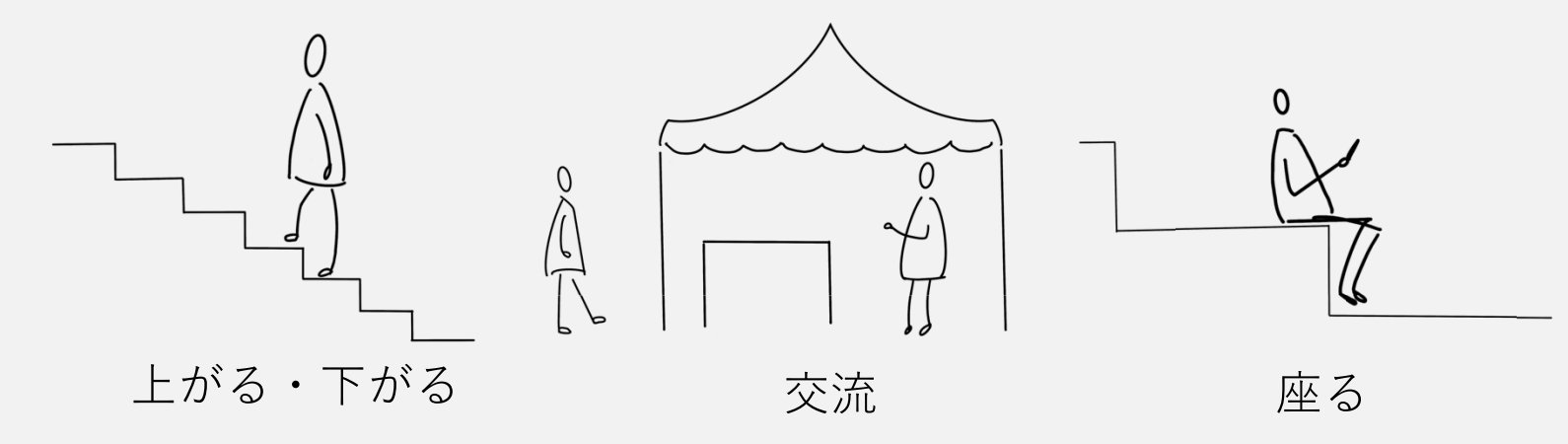


1階改札口

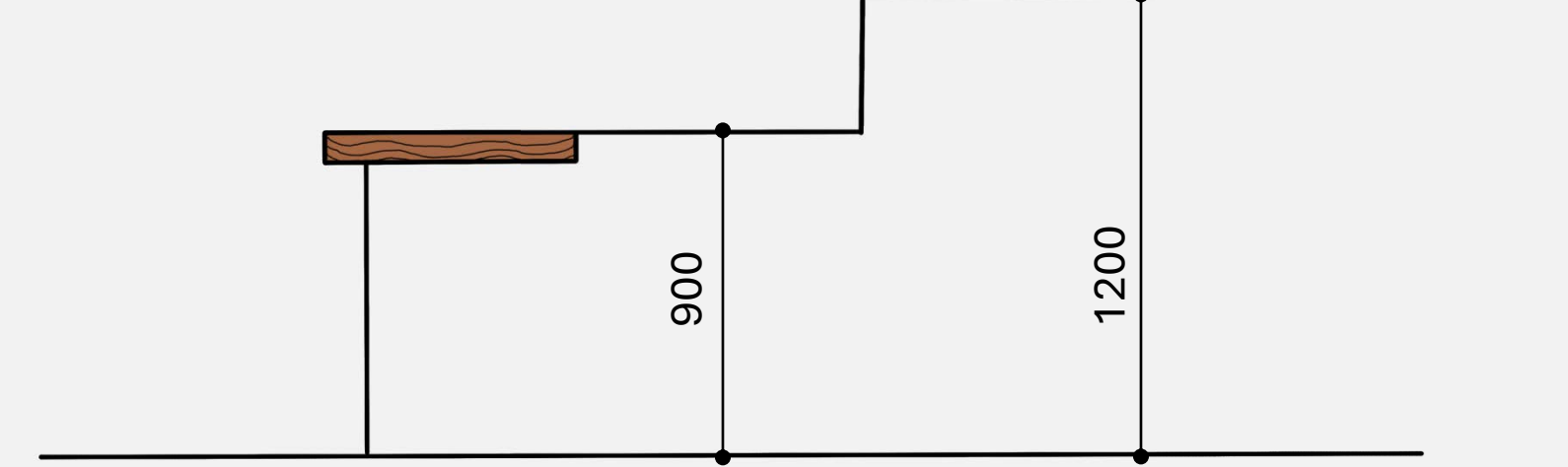


1階と2階に改札を作ることにより、朝や講義前、講義後の学生が混み合う時間でも地域住民が快適に駅を利用することができる。また、1階に改札をもってくることで柵内コンコースに入る前に電光掲示板で時間を確認することができるようになっている。快速の止まらない駅として電車が来るまでの行動の幅が広がることが期待できる。

駅前広場

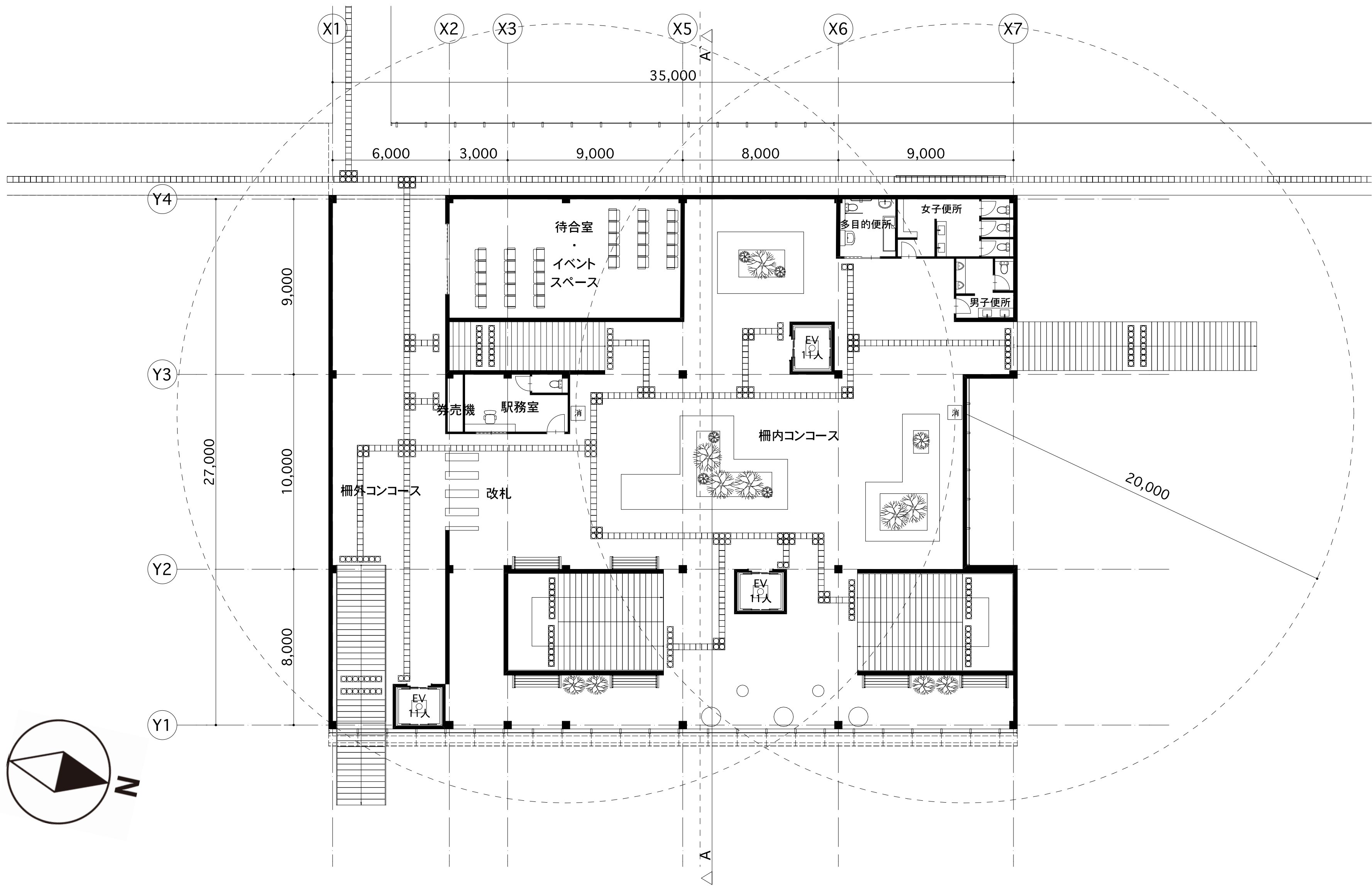


階段としていない段のところには植栽を施すか、枠をつけて座る場所になるようにし景観を保ちながら予期せぬ落下防止策をとっている。



学内の敷地で、以前中央会館のステージがあった場所に新たに駅前広場ができる。

いきなり駅プラットフォームに続く階段があるのではなく、この駅前広場の階段を介して駅プラットフォームに続く階段とすることで長い階段という印象を減らす。また、その段の高さと幅を利用して階段として使うだけでなく、座ってくつろいだり、イベントのできるスペースが広がっている。



2階平面図（1:150）

2階改札口・柵内コンコース



2階の柵内コンコースは1階とは違い、広く開放的な空間になっている。このトップライトは、広い空間に光が差し込み、照らすだけでなく、今ある九産大前駅にもトップライトがあることからリニューアル前の面影を残すようにした。また、リニューアル後も北側の面から電車が見えるようになっているなど、ところどころに面影を残すことでリニューアル後も九産大内駅に親しみをもってもらえるのではないだろうか。

待合室・イベントルーム



アンケートの意見を参考にし、2階には待合室を設けた。最低でも30人収容できるようにし、ただ待合室として活用するのではなく、時折大学が主催するイベントを開けるようにする。壁をガラス張りにすることで自由通路からイベントの様子が伺える。駅での公開講座は小中高生に対する教育機関の提供にもつながる。講座に参加することで、小中高生が新たな知識や技能を習得できるだけでなく、大学に対する興味を持つきっかけとなるでしょう。大学の存在が身近に感じられることで、本学が進学の選択肢として意識される機会が増えることも期待できる。具体的には右の様に、地域イベント交流や公開講座を行っている。公開講座に関しては、0～2歳児に向けた保育・教育講座や、大人の絵画教室など幅広い年齢に向けてあり、地域住民にとって役立つ講座が行われているのではないだろうか。

地域イベント交流・公開講座

陶芸体験

高齢者の人物写真撮影プロジェクト

香椎宮プロジェクト（お茶会）

九産大ホテル鑑賞会

教養講座

歴史文化
DIY
食・文化

特別講座

異文化経営
SDGsと国際情勢

実践講座

大人の絵画教室
子供理科実験教室
子供絵画教室
保育・教育0～2歳児編

自由通路



今回のリニューアルによって九州産業大学と国道495号線をつなぐ自由通路ができた。この自由通路は大学の裏にあるコンビニエンスストア付近とつながっているため、駅構内にはありませんが、自由通路を介することでアンケートで得たコンビニエンスストアが欲しいという意見に応えた。同時に、自動車の通りの多い国道495号線の上を通路で渡れるようにすることで自動車と人の接触を抑えることができる。エレベーターから改札までの道はバリアフリーを考慮して屋根をかけている。

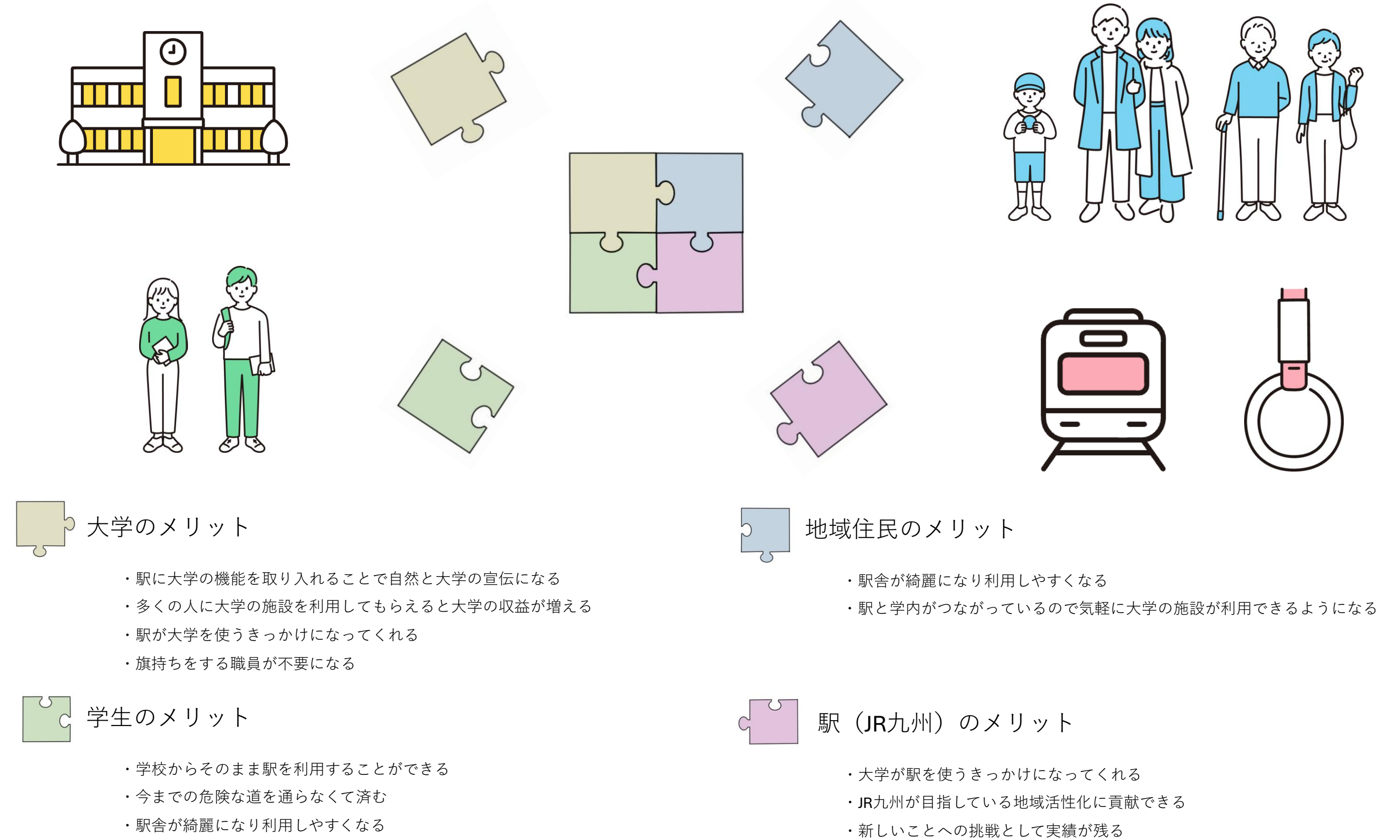
03 Future



駐輪場及びデッキ



各方面にもたらす影響



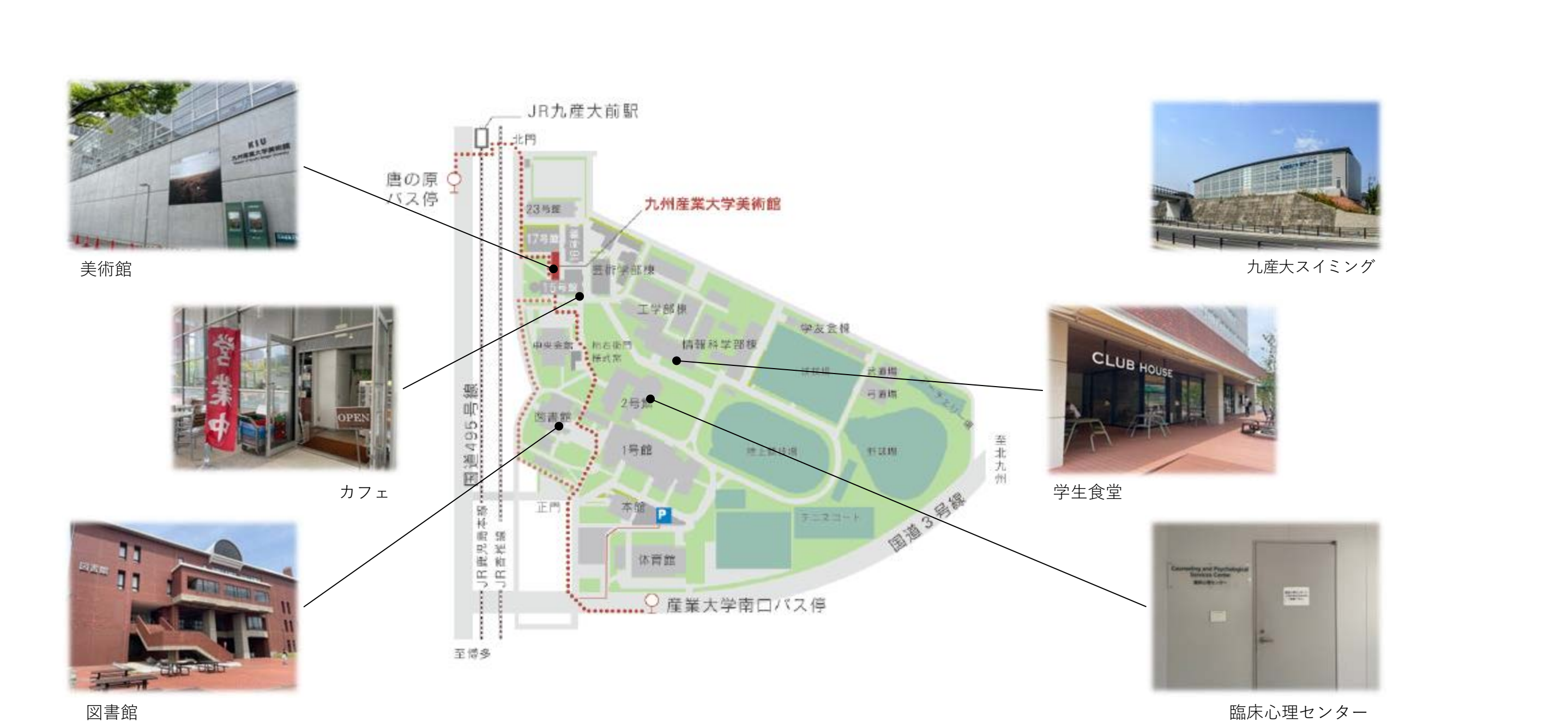
自然災害における役割

近年、地震や豪雨など予期せぬ自然災害が多発する中で、災害時の避難や支援体制の強化が求められている。九州産業大学は福岡県警察本部東警察署と、大規模災害が発生した場合一時的な警察署機能の移転先及び活動拠点として、大学の施設を一部提供することに合意し、**2021年3月9日**、「大規模災害時における施設利用に関する協定」を締結した。**5000人**収容できる大楠アリーナなど耐震性に優れ避難場所として活用できる施設が開放され、国道や都市高速、**JR九州**の路線があるなど交通の便が良いことで香椎地域の避難所としての役割をも担うようになった。九州産業大学の理事長は、「この締結を機に地域の防災拠点としての役割をより充実させ、社会に貢献する機会をいただけることは大変喜ばしい。」とコメントしている。災害時、普段から大学を身近に感じているのと、初めて大学に来た時では、精神にもたらす効果はかわってくるはずだ。平時から大学と地域が連携し、防災訓練や災害対策を共同で実施することで、駅を拠点とした地域全体の防災力が向上すると考える。これは駅と大学が一体化することでさらに強固なものになるのではないだろうか。



開放施設

九州産業大学には以下のような開放施設がある。これらの開放施設は一般の方々にも開放されているため誰でも利用可能な施設なのである。しかし、開放されている施設があると言うことを学生ですら知らない人が多い中、一般の方はより知らないのではないだろうか。駅を学内に建てることでこのような施設を利用するきっかけになることを願う。

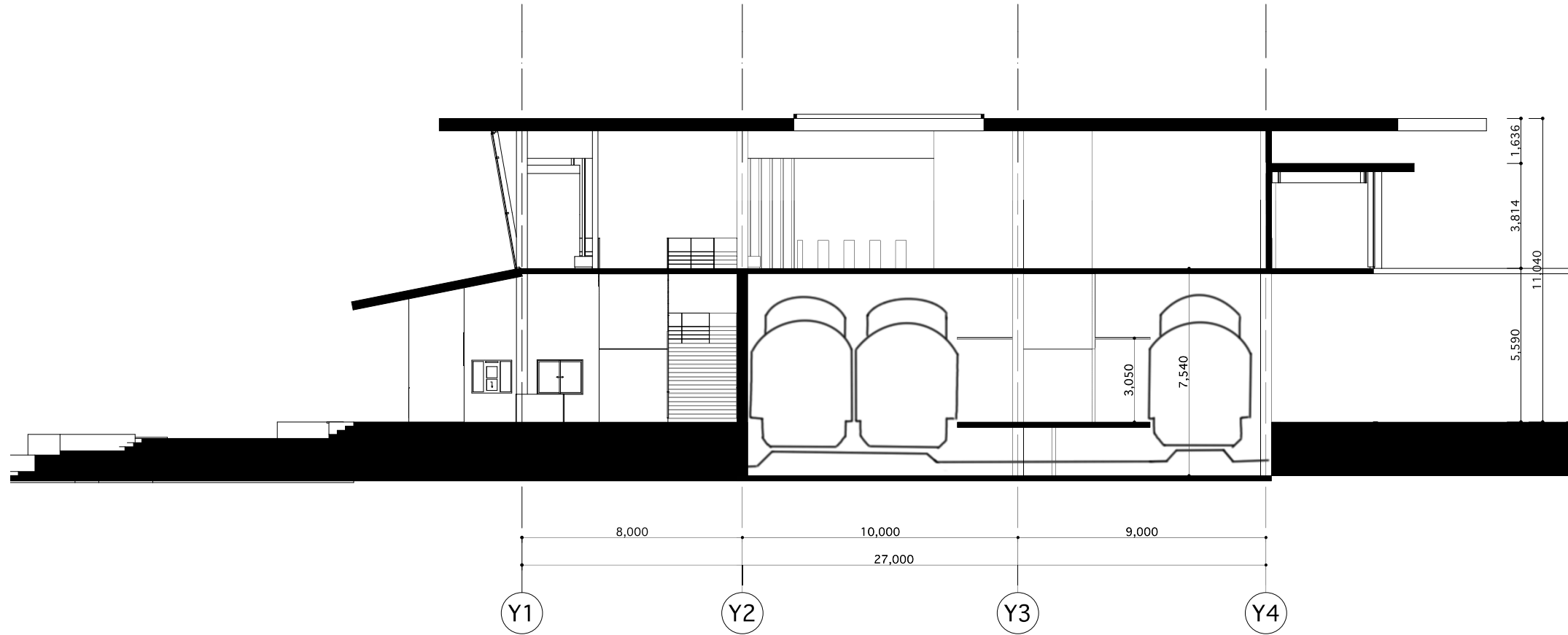


これから

本研究では九産大前駅のリニューアルに伴い、利便性の向上と地域活性化を目指した提案を行った。地域住民や学生が快適に利用できる駅の実現に向け、さまざまな視点から検討を重ねた。災害時における駅の役割にも触れ、防災意識を見直すことができたのではないだろうか。地域イベントの開催や大学との連携を強化し、九産大内駅を単なる交通拠点から人々が集い交流する「交流拠点」へと移り変えて行く。本研究が、駅・大学・地域・学生とが一体となり、地域社会の活性化にも貢献するものとなれば、非常に喜ばしい限りである。



断面図

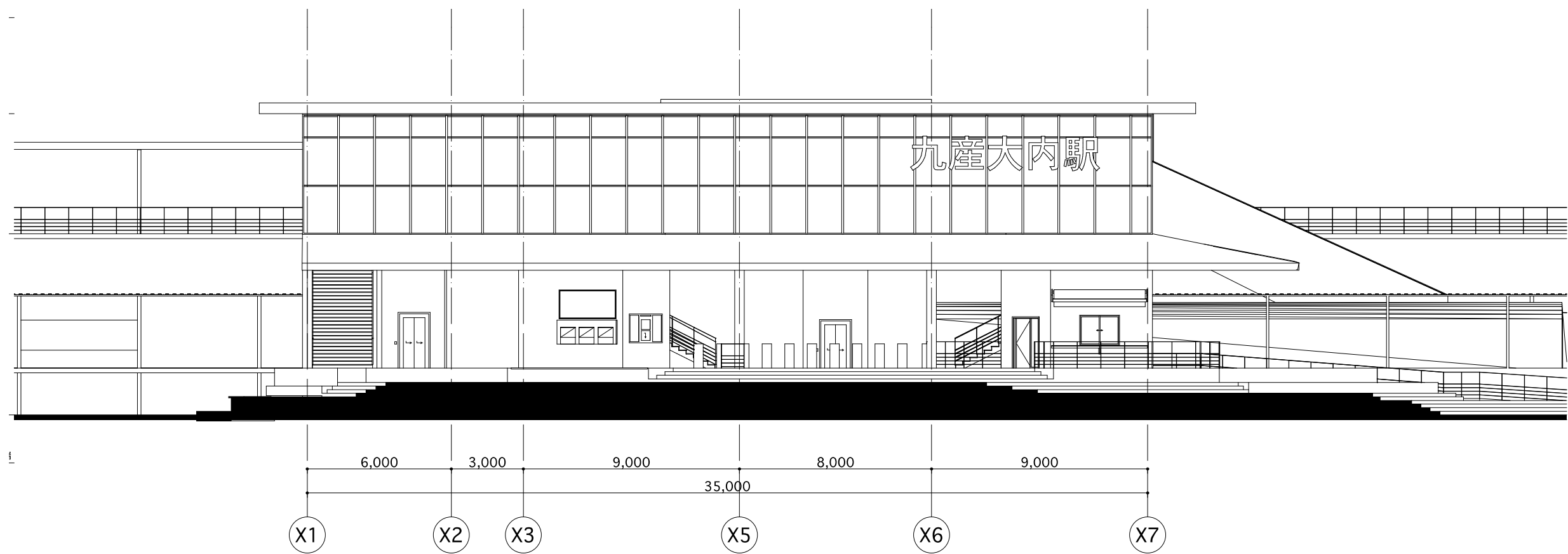


A-A`断面図（1:200）

立面図



西側立面図（1:200）



東側立面図（1:200）